

第二部

都劇

mask theater

能楽者は能面「増女」を外した。
そこには、日本女性の顔があった。

mask theater

男は槍を前に突き出した。

mask theater

駆ける男が通り過ぎていくのを、
メルデアは眺め、
数人の男たちに守られている
閣下が来るのを待っていた。

mask theater

「よし。三者三様。これは拳で決めるしかないな」

mask theater

「星となられて、
我らを導いてくださる太導様、
その十七人のお弟子様、
私はこれより、
あなたがたの下では嘘偽りを申しません。
もし、
嘘偽りを私が申しましたら、
何なりと罰をお与え下さい」

mask theater

「あの、僕は、二人に任せてもいいと思うので、だから、僕は拳をしなくても……」
「それなら、それを、拳で勝ちとれ」
「久しぶりだな、拳をするのは」

mask theater

一度寝た男の臭いを嗅ぎ間違うはずがない。

mask theater

男の胸に寝そべって、女は聞いた。
あなたはどこから来たの？
それから、どこへ行くの？

mask theater

「太導様がこの者を救うつもりなら、
いくらでも逃れる導きを与えてくださる」

mask theater

都劇役者は演面「漠侠」を外した。
そこには、北部三国女性の顔があった。

mask theater

The man of the overlooking

第二部 都劇